

ピアノオーデション



▲出演者たちはそれぞれに素晴らしい演奏を披露しました

9月2日に開催される「南あわじ音楽祭」に出演するピアノリストを選出するため、三原公民館において6月17日、ピアノオーデションが行われました。

今回の「南あわじ音楽祭」は、市出身で世界最初の純正調パイプオルガンを発明した田中正平博士の生誕150周年を記念して行われるもので、東京フィルハーモニー交響楽団所属の5人の奏者が演奏を行います。

オーデションでは9歳から40歳までの幅広い年齢層の参加者6人が、課題曲と自由曲を1曲ずつ演奏し、東京フィルの首席チェロ奏者である金木博幸さんたちが審査しました。審査員の1人である「音楽によ

るまちづくり実行委員会の本濱まなみさんは「技術だけでなく、心に響く音楽であるかどうかを審査しています。思いを伝えるのが音楽として大切だと考えています」と話しました。審査の結果、課題曲の演奏者は浦瀬奈那子さん(福良)、自由曲の演奏者は山口真理奈さん(八木)に決定しました。

東京フィルと共演する浦瀬

さんは「東京フィルの人から多くの事を学び、音楽家として向上したい」と話し、ソロで演奏する山口さんは「結果発表の際に頂いた講評を研究し、9月に向けて練習を重ねたい」と話しました。

「南あわじ音楽祭」のチケット販売については生涯学習文化振興課(☎37・3020)にお問い合わせください。



▲音楽祭に出演する浦瀬さん(右)と山口さん

第2次地域福祉推進計画を策定

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを、目指す具体的な活動計画として、市社会福祉協議会が「第2次地域福祉推進計画」(24〜28年度)を策定し、計画について説明した冊子や概要版を作成しました。

この計画の策定にあたっては、行政計画である地域福祉計画の策定作業と連携し、市民へのアンケート調査や関係機関へのヒアリング調査、地区別懇談会などに取り組みました。そこから出てきた地域の課題を分析し計画に反映しています。



▲地域福祉推進計画の冊子

ご寄附ありがとうございます。

ふるさと納税

ふるさと南あわじ応援寄附金

寄附状況の公表 (6月16日現在)		
区分	件数	金額
南あわじ市内	413件	57,574,719円
市外(島内)	56件	9,341,000円
市外(島外)	250件	29,864,940円
合計	719件	96,780,659円

詳細は市のホームページで掲載しています

瓦を活かしたまちづくり協議会 「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰



▲会長の油本 博さん(中央)と副会長の菊川 豊さん(右)が6月14日、中田市長に受賞の報告をされました

慶野松原の環境美化と特産品の瓦を使った景観づくりに取り組んでいる「瓦を活かしたまちづくり協議会」が第23回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞しました。

全国の花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間団体が、緑化推進活動の模範として表彰されるもので、同協議会は平成16年から活動しており、慶野松原などで瓦を使った花壇の製作、維持管理を続けているほか、松帆交差点付近の

清掃活動も積極的に行っています。

6月14日に報告会が行われ、中田市長は「良い発案でいろいろ瓦を使った環境整備に取り組んでいただきほんとうにありがたい」と感謝を伝えました。

同協議会の油本 博会長は「たいへん名誉なこと、これまで以上に仲間と協議をかさねながら地域の環境美化のために活動を続けていきたい。」と抱負を語りました。

下水道出前講座が行われました



▲施設内を見学する児童たち

市の下水道処理施設である賀集浄化センターで5月29日〜6月28日までの間、市内の小学4年生を対象とした下水道出前講座が実施されました。家庭や工場から排出され

た汚水を、どのようにしてきれいな水に変えているかを学んでもらうことで、小さい時から環境問題について考えてもらうことを目的として行われました。

訪れた児童たちは、下水道管の大きさやバクテリアを使った汚水の浄化など、下水道に関する様々な話を聞きましました。その後、同センター内の様々な設備を見学し、実際に汚水がきれいになっていく様子を学びました。



▲下水道について話を聞く児童たち

ふれあい市長室

食の架け橋「南あわじ市」を目指して!

南あわじ市長 中田勝久

先日、農林水産省で私と農業振興部長、次長同席のもと、食の拠点施設の整備について協議を行いました。

これまでは、市から国の省

庁への直接協議は容易ではなかったのですが、上京の都度、農林水産省の担当課へ市の事業の取り組み・内容・地元要望を行ってまいりました。

その内容と熱意を受け止めていただき、今回農産物と水産物・加工品を総合的に取り扱える事業メニューの紹介と財源についてご対応いただきました。嬉しい結果であり大変喜んでいきます。



▲地元産の野菜売場(めっけんもん広場)

皆様もご存知のとおり、淡路島特に南あわじ市は、古くから御食国として、豊かな旬の食材の宝庫として大産地を形成しています。

しかしながら、島民は淡路島の新鮮なおいしい食材を食する機会が少なく、また、淡路島に求められた方もまるごと淡路島の食材を体験できる施設は限られています。

市では、関係団体と共に淡路島の豊かな食材を全国に発信できる食の拠点づくりに取り組んでいます。

「あわじ島まるごと食の拠点施設(仮称)」は、直売所だけでなく、全国に誇る淡路島の食材を食べていただくレストラン、情報発信、加工、体験農園、食育研修施設等、生産する・食べる・買える・体験する・学ぶ・交流する文化(伝統芸能など)の要素を持った、食と農のテーマパークを目指しています。

農・水・商工観光のまちとして、来年春季の開業を目指しております。吉備国際大学南あわ

今後、国、県とも連携しながら、全国に注目される施設を整備していきます。そして、ぜひ多くの生産者とノウハウを持った企業等に参加していただき、運営管理の組織化を目指して欲しいと考えています。

食の拠点施設を積極的に整備し、地域農業・漁業の活性化を図り、島内外に愛される施設づくりを目指しております。市民の皆さまにおかれましては、ご支援、ご理解いただきますようお願いいたします。